



## 最優秀者に「佐藤総合計画 東北事務所」

6月30日(木)午前10時から、鹿角市交流センターで(仮称)鹿角市学習文化交流施設基本設計プロポーザルの公開ヒアリングおよび第2次審査委員会が開かれました。市民など約60人が見まもる中、発表者と審査委員の間で、2時間にわたる熱のこもった質疑応答が繰り広げられました。

今号では、公開ヒアリングの様子と審査委員長(東北工業大学 谷津憲司教授)による第2次審査の講評をお知らせします。

公開ヒアリングは午前10時から、各社発表時間10分、質疑15分で行われました。今回のヒアリングでは、地方都市のホール運営に多くの困難が伴うことから、全発表者に対して「年間を通して市民主体の活動をこのホールで効率的、効果的に運営することについて、設計者としての考えを聞きたい」との質問が委員長からありました。25分という短いヒアリングでしたが、発表者が対応に窮することもなく、各者持ち味を十分発揮したものとなりました。

公開ヒアリング終了後、非公開の審査委員会が開かれ、最優秀者に「佐藤総合計画」が選定されました。



第2次審査 プレゼンテーション風景



質疑応答の様子

## 日常性を重視した施設構成、駐車場の分散配置を評価！

第2次審査講評 (審査委員長 谷津憲司)

審査は全委員がそれぞれ評価を出し合い、議論が出尽くしたところで、投票に入り、1位(受付番号5)、2位(受付番号10)、3位(受付番号2)、4位(受付番号4)、5位(受付番号7)という結果を得ました。

議論の結果、1位および2位の「佐藤総合計画案」と「環境デザイン研究所案」を最終審査に残すことで合意し、3者が退けられました。

両者の案は、様々な面においてここまで退けられた案の特徴を対比的に示すもので、シンボリック表現に対して、親密性の協調、駐車場の集中配置に対して分散配置、空間の非日常性強調に対して日常性の重視など、この建築の何に重きを置くのか設計者の主張が明白に分かれたもので、評価は拮抗し、優劣つけがたいものでした。しかし、最終的に審査委員会は、両者の優れた点を認めながらも総合的にバランスがとれ、日常性を重視し、地域になじんだ穏やかな街並みの風景を感じさせる「佐藤総合計画案」を最優秀案に選びました。

最優秀案は次のような特徴を持っています。

いつも市民で賑わう「こもれびひろば」のある提案です。森をイメージした提案は他にもありましたが、駐車場を分散配置することで、緑豊かな街並みを予感させる風景を実現しています。駐車を分散させ台数を柔軟に操作することにより、日常の利用に即した人にやさしく、目的の機能にも近づきやすい、すぐれた外部空間を構成しています。無散水融雪で駐車場に雪を溜めない計画です。

市民が気軽に施設に立ち寄り滞留できる工夫があり、中心市街地への開き方も絶妙で、うまく人の流れを導入できるように考えています。施設の中央にある交流広場を通り抜けることができ、日常の中で市民が穏やかに交流できる提案が審査委員に高く評価されました。



屋外広場に連なる大きな内部交流広場（こもれびひろば）は、内部の全ての空間にいたる起点になっています。冬の長いこの地方にあって、木漏れ日が降り注ぎ、心地よく、日がな一日過ごせるような空間を感じさせるものです。外部から空気や光を取り入れるエコツリーのような提案もあり、交流広場にいるのが楽しくなる様々な空間を建物中央に展開しています。

一方、市民との“共動”による施設づくり、施設の運営面での提案ではやや具体性を欠いているという指摘もありました。しかし、案全体の構成、これまでの類似施設の設計実績などから、設計案を市民との“共動”で作上げるパートナーとして十分な力量があると認めたものです。市民との対話の中で、内容の完成度を高めることを期待したいものです。

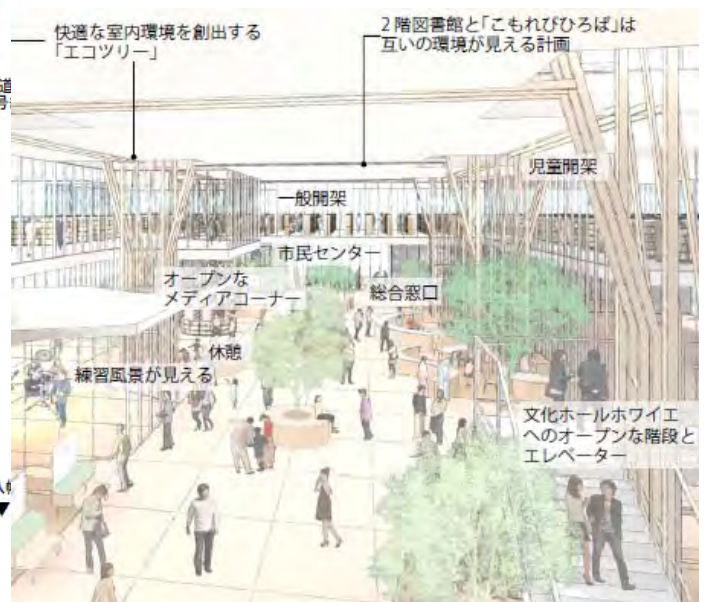
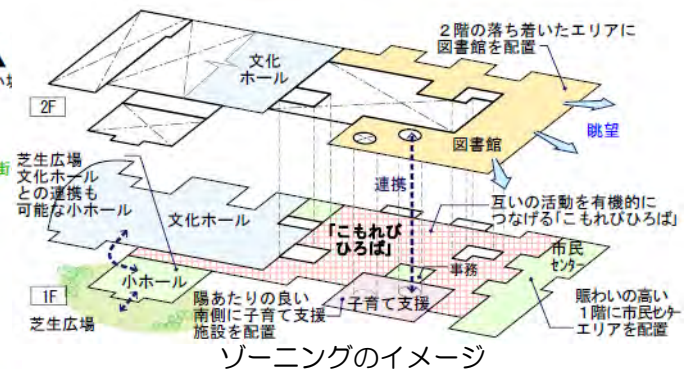


最優秀案の建物外観図



最優秀案の配置計画図

(南側駐車場は通常広場として使われます。図書館が2階東側に配置されています。)



「こもれびひろば」のイメージ

このニュースへのご意見、ご感想をお寄せ下さい。

学習文化交流施設

検索

政策企画課政策推進班 TEL 0186-30-0292

E-mail: seisaku@city.kazuno.lg.jp FAX 0186-30-1122